

## その3 ウサヒの涙

### その3 ウサヒの涙

敗北を喫したウサヒは傷心で焼き場の前にいました。



「むむむ…」



「うーん、おいしそう…」

おなかをすかせたウサヒが涎をたらして焼き場をうろうろしていると、

「これあげるわ」

「え、いいんですか!？」



おなかをすかせた獣を見かねた女性が一匹恵んでくれました。



「ありがてえ…ありがてえ…！」

頬を伝う涙をごまかすためにウサビは漫画で見た台詞を口にしました。

ウサビ「いかん…雨が降ってきたな」

田中君「雨なんて降って…」

ウサビ「いや…雨だよ」

ウサビがカッコいいこといったつもりになっていると…

「ん…？」



ポツリポツリ



「ギャワー！！ほんとに降ってきた！！」

かっこつけた結果がこれだよ！

とはいえ祭りも終盤、もともとみんな川に入らずぶ濡れなので気にしていないようです。

ウサヒが気になるのはさっき乾かしていた石。急いで「イッシッシ」に戻ると…



「よかった！石は無事だ！」

ヌルリ

「ギャワー！！まだ乾いてなかった！！」



輝く「ウサ」の字と手袋に垂れる絵の具。

最後までついてないようです。出来には満足だけど。



「やはり着ぐるみに水辺のイベントは相性が悪いのかしらん・・・」

一部自業自得な部分もありつつ。

閉会の挨拶を聞きつつ先代の言葉をかみ締めるウサビでありました。

渓流祭り編・完



「ところでこの魚、山女なのか岩魚なのか虹鱒なのか区別がつかないなあ・・・」

「美味しいからいいけど」